

監督デビュー作から「仁義なき戦い」シリーズ全5作、晩年の傑作『バトル・ロワイアル』まで、

計48本を上映する深作欣二監督の大回顧特集を開催！

特集上映

映画監督 深作欣二 Kinji Fukasaku Retrospective

2019年4月23日(火) - 5月26日(日)

平素よりお世話になっております。国立映画アーカイブでは、2019年度最初の企画上映として、4/23(火)より約一か月に渡り、深作欣二監督の大回顧特集を開催いたします。

■**深作欣二(1930-2003)**は、1953年に東映に入社、1961年に『風来坊探偵 赤い谷の惨劇』で監督デビューを果たします。以後、アクションや暴力表現に革新をもたらし、斜陽に陥っていた1960年代以降の日本映画に絶えず喝を入れ続けました。手持ち撮影を駆使した人を斬るようなカメラワーク、破滅へと突き進んでゆく男たちの人物造形、スターから無数の脇役までを躍動させる行き届いた集団演出など、深作映画のたたえる活劇性は今も色褪せることはありません。

■本特集では、『狼と豚と人間』(1964年)をはじめとする陰影に満ちた若き日のアクション映画群や、もうひとつの深作ワールドとも言える妖艶なカルト作『黒蜥蜴』(1968年)、旧来の任侠映画を刷新して「実録」路線を拓き、1970年代日本映画の金字塔になった「仁義なき戦い」シリーズ全5作(1973-74年)、「里見八犬伝」にヒントを得て超大作『スター・ウォーズ』を迎え撃った『宇宙からのメッセージ』(1978年)、大作路線にかじを切った1980年代の日本映画界を背負う巨匠として手がけたヒット作『蒲田行進曲』(1982年)、少年少女同士の殺戮を扱って社会を騒然とさせた晩年の傑作『バトル・ロワイアル』(2000年)など、深作監督が残した劇場向け作品61本(「総集篇」「特別篇」除く)から作品を厳選し、さらにTVドラマ2本を加え、**45プログラム(48本)**に組んで上映します。これは、2003年の深作監督逝去時に三百人劇場で開催された追悼特集以来、**16年ぶりの大規模な回顧特集**となります。

深作映画の尽きせぬ活劇の粋を、国立映画アーカイブの大スクリーンで楽しめる貴重な機会に、ぜひ本特集をご紹介しますよう、お願い申し上げます。

舞台挨拶のお知らせ

- ・4月27日(土)4:00pm 『バトル・ロワイアル』上映前 ゲスト:深作健太監督
- ・5月3日(金・祝)1:15pm 『北陸代理戦争』上映前 ゲスト:高田宏治さん(脚本家)



深作欣二監督



『仁義なき戦い』(C)東映



『黒蜥蜴』



『バトル・ロワイアル』(C)2000「バトル・ロワイアル」製作委員会

上映作品(45プログラム・48本)

「風来坊探偵」シリーズ 風来坊探偵 赤い谷の惨劇(1961)、風来坊探偵 岬を渡る黒い風(1961) / 「ファンキーハットの快男児」シリーズ ファンキーハットの快男児(1961)、ファンキーハットの快男児 二千万円の腕(1961) / 白屋の無頼漢(1961) / 誇り高き挑戦(1962) / ギャング対Gメン(1962) / ギャング同盟(1963) / 狼と豚と人間(1964) / 脅迫(1966) / カミカゼ野郎 真昼の決斗(1966) / 解散式(1967) / 博徒解散式(1968) / 黒蜥蜴(1968) / 恐喝こそわが人生(1968) / ガンマ第3号 宇宙大作戦(1968) / 黒薔薇の館(1969) / 血染の代紋(1970) / 君が若者なら(1970) / 軍旗はためく下に(1972) / 現代やくざ 人斬りや太(1972) / 「必殺仕掛人」1・2話(1972) / 人斬りや太 狂犬三兄弟(1972) / 仁義なき戦い(1973) / 仁義なき戦い 広島死闘篇(1973) / 仁義なき戦い 代理戦争(1973) / 仁義なき戦い 頂上作戦(1974) / 仁義なき戦い 完結篇(1974) / 仁義の墓場(1975) / 県警対組織暴力(1975) / 資金源強奪(1975) / 暴走パニック 大激突(1976) / やくざの墓場 くなしの花(1976) / 北陸代理戦争(1977) / 柳生一族の陰謀(1978) / 宇宙からのメッセージ(1978) / 復活の日(1980) / 魔界転生(1981) / 道頓堀川(1982) / 蒲田行進曲(1982) / 里見八犬伝(1983) / 上海パンスキング(1984) / 華の乱(1988) / いくつかキラキラする日(1992) / 忠臣蔵外伝 四谷怪談(1994) / おもちゃ(1999) / バトル・ロワイアル(2000)

【企画名】映画監督 深作欣二

【会期】2019年4月23日(火) - 5月26日(日) * 月曜休館

【会場】国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU(2階)

【料金】一般520円 / 高校・大学生・シニア310円 / 小・中学生100円 /

障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

*4月9日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各100席分)を販売。【Pコード:559-795】

【お問い合わせ】03-5777-8600(ハローダイヤル) 【ホームページ】<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/fukasaku201903/>

広報画像や特集詳細に関するお問合せ

国立映画アーカイブ上映展示室 白鳥・玉田・大澤・岡田 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 MAIL:pr@nfaj.go.jp